京都市役所
本庁舎
ガイドブック

　現在の本庁舎は、約１００年前に建設され、まちのシンボルとして、国内外から多くのお客様をお迎えし、また、市民の方から親しまれて、大切に使われてきました。
　そんな本庁舎を、これからの１００年も愛される京都のまちを支えていく、そんな市庁舎となるようにとの思いを込めて、改修工事を行いました。

　京都市では、現在の市庁舎が抱える最大の課題である耐震性能の不足や、執務室の狭あい・分散化及びこれに伴う民間ビル賃借等に係る多額の経費負担、バリアフリー化対応等の様々な課題を解消し、市民の安心・安全なくらしを守る防災拠点として、すべての人にやさしく、効率的・効果的な行政運営が可能な市庁舎として、分庁舎、西庁舎、本庁舎及び北庁舎の一体的な整備を進めています。

01　京都市の歴史と文化を発信！

京都のまちは、古き良きもの守り、新しいものを取り入れながら発展してきました。その先人たちの思いを未来の世代へと引き継いでいくため、様々な関係者の御協力をいただきながら、京都が誇る伝統技術と新しい技術の融合により京都の歴史や文化を発信するシンボルとして生まれ変わりました。

本庁舎を入ると、正面には、京都の四季折々の行事や風物を表現した「ステンドグラス」、左手には、本市の伝統産業品に用いられる漆や蒔絵などの装飾を施した「漆塗りエレベーター扉」、エレベーターの反対側には、京都の１５種の伝統産業技術と技法を駆使した「モニュメント時計」で来庁者をお迎えします。

■ステンドグラス

京都の四季折々の行事や風物を表現しています。ステンドグラス作家として活躍されている佐々木真弓様より御寄付いただきました。

■モニュメント時計

京都市の市章である御所車をモチーフとし、文字盤に配置された12のパネルに、京都の伝統産業の粋を尽くした15種の技術を駆使し、四季折々の行事や風物が表現されています。国際ソロプチミスト京都－みやこ様より御寄付いただきました。

■漆塗りエレベーター扉

京都市産業技術研究所と市内企業により開発された、金属に施工が可能で、耐候性に優れる新しい漆の技術が使われています。また、加飾には、使用済小型家電から回収したリサイクル金を使っています。

■中央エントランス

創建当時の姿を目指して改修を行いました。石膏彫刻や葱花型アーチ等は一部剥離等が見られる部分を補修し、その意匠の保存に努めています。照明器具や壁・床のタイルについては創建当時のデザインで復元しています。

製作者の声

漆は漆器、仏壇仏具、西陣織などの多くの伝統産業に使用されています。漆の精製方法を改良し、さらに広い分野で活用されることで皆様の目に触れる機会を増やせるよう努力していきます。（㈱佐藤喜代松商店様）

ポイント

解体撤去工事に伴い発見された創建当時の床タイルをサンプルとし、タイルの復元を行いました。

■正庁の間

創建当時の姿を復元した正庁の間は、審議会や式典等外部の方との交流の場として、また、国内外からお越しになる来賓等の歓迎行事等で使用しています。

正庁の間で開催する審議会や式典等を行う際の控室として使用するとともに、京都ならではの和の空間が感じられるおもてなしの場として、隣接して和室を整備しています。

整備に当たっては、床柱に北山杉の磨き丸太を使用するなど、可能な限り市内産木材を使用しています。

多くの方をお迎えしています

市役所では、これまでから、各界で活躍され、京都市の発展に御尽力いただいた方々や、姉妹都市をはじめとした海外からの要人、代表団等、国内外から毎年多くの方々をお迎えしてきました。

これからの１００年においても、まちの発展について共に語り合う交流の場として、市民の皆様をはじめ、より多くの皆様に訪れていただけるよう、京都が誇る歴史や文化、おもてなしの心が感じられる市庁舎へ整備いたしました。

多くの方の御協力をいただきました

市庁舎整備事業では、ステンドグラスやモニュメント時計の寄付など様々な関係者の御協力をいただきました。また、篤志家の方から１億円の寄付を受け、正庁の間や和室等をはじめとする京都らしい市庁舎の整備に活用させていただきました。

02 いざというときも、いのちと暮らしを守る庁舎として そして、あらゆる人にやさしく、開かれた庁舎として

災害時においても、市民の皆様の安心・安全を守れるように、高い耐震性能や災害対策活動の中枢機能等を備えた災害対策の拠点となるよう整備を行いました。

また、今回の改修に合わせて市民の皆様に御利用いただけるスペースを大幅に拡充するなど、これからの１００年においても、「市民のための市役所」として開かれた市庁舎となるように、整備を行いました。

■免震装置

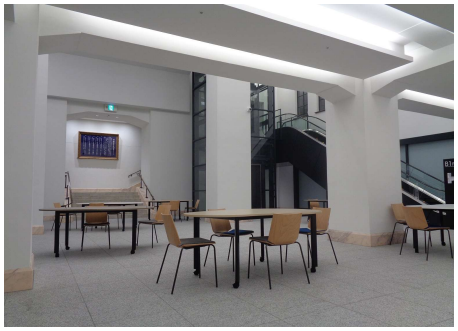
既存の本庁舎の下に新たに免震装置を設けることで、建物のデザインを維持しながら、地震に対する安全性を確保しました。

■地下通路

地下鉄・御池地下駐車場・ゼスト御池からバリアフリーでアクセスでき、非常時には、避難や救助等を行う複数のルートとして機能します。 また、展示スペースでは伝統産業など様々な企画展示を行っています。

■市民スペース

市民の皆様に、気軽に利用できる憩いの場を新たに整備しました。市民の皆様への情報発信を行うほか、授乳室や給水スポットも新たに設置しています。



■地下１階オープンスペース

地下1階にも、市民の皆様に、気軽に利用いただけるスペースを設置しています。

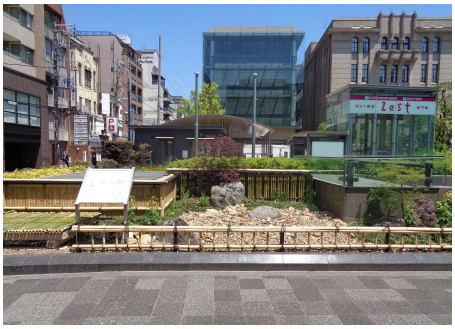
待ち合わせや打合せ等に御利用ください。

■屋上庭園

市民の皆様が、気軽に利用できる憩いの場です。四季折々の草花が季節の移ろいを感じさせてくれます。また、気温に連動したミスト装置も設置しています。

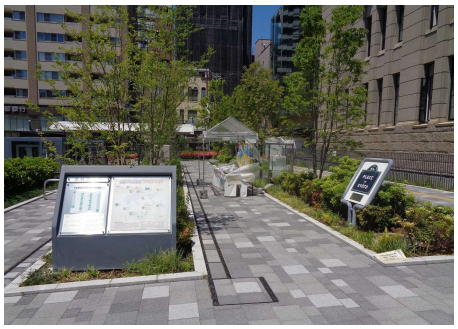
■市庁舎前広場

市民の皆様の憩いの場として親しまれています。休日にはイベントも開催されています。



■雨庭構造見本庭園

雨庭とは、地上に降った雨水を下水道に直接放流することなく、一時的に貯留し、ゆっくり地中に浸透させる構造を持った緑地のことです。雨水の流出抑制や、修景・緑化の推進、ヒートアイランド現象の緩和などの効果が期待されており、近年広まりつつあるグリーンインフラの一つとして注目されています。京都造園建設業協会様より御寄付いただきました。



■友好の小路

姉妹都市・パートナーシティから友好の印として寄贈いただいたモニュメントを展示しています。

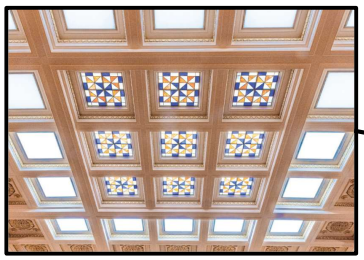
製作者の声

市庁舎を訪れた市民の皆様に、自然の力を生かした雨庭の構造を知っていただけるきっかけになってほしいです。（京都造園建設業協会様）

03　市会議場　“温故知新”リニューアル！

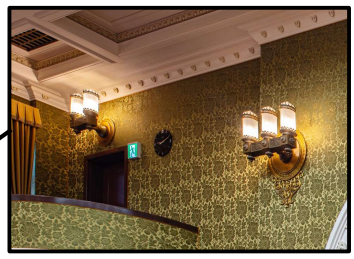
市会議場は、昭和２年に完成した現在の本庁舎２階中央部分に設置され、約１００年の長きにわたり使用されてきました。

この度の改修工事において、天井のステンドグラスや正面のアーチなど、歴史ある議場の雰囲気を残しながら、耐震補強やバリアフリー化など、時代に合せた造りを施すことにより、リニューアルしました。



■天井・天井照明

幾何学模様のステンドグラスは落下防止の措置をしたうえで、元の議場のものを残しています。



■照明

議場正面の３連型照明は元の議場のものです。また、議場入口の照明は、創建当時の２連型照明を復元しています。

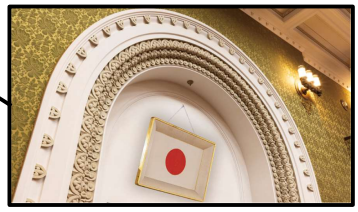
■壁

壁面の装飾には織物の裏に紙などを張ることなく布のまま壁に張る「緞子（どんす）張り」という伝統工法が使われています。写真などをもとに色彩や柄は創建当時のものを復元しています。

製作者の声

緞子張りは、昔の建物では多く採用されていましたが、技術的に施工が難しい等により、現在は少なくなっています。

吸音効果のほか、空間に柔らかい印象を与えることができる緞子張りの良さを後世に残していけるように、今後も技術の伝承に取り組んでいきたいです。（㈱川島織物セルコン様）



■議場正面アーチ

インド建築の影響を受けたデザインのアーチは漆喰で作られており、元の議場のものを保存しています。

そのほかにも

■時代にあわせたリニューアル

・議場のバリアフリー化

今までは、出入りする際に階段があるなど、議員が車いすで本会議に出席することが難しい構造でしたが、新しくスロープが設置され、車いすで議場に入ることができるようになりました。

・ヒアリングループの設置

補聴器などを利用されている方が、議員や市長等の発言をクリアに聞くことができるようになりました。

・市内産木材の利用

議員の氏名標や議場背面の壁には、市内産木材であるみやこ杣木を用いています。

・環境への配慮

ＬＥＤ照明、断熱材を採用するなど、環境への配慮に取り組んでいます。

・子育てを支援する環境整備

傍聴ロビー横に市民・議員が使える授乳室を設置します（整備中の新北庁舎に設置予定）。

● 本庁舎の建築的特徴

現在の京都市役所本庁舎は三代目の庁舎であり、鉄筋コンクリート造の市庁舎が「関西建築界の父」と言われる武田五一による監修のもとに竣工しました。

ほぼ完全に左右対称で、中央と両翼を突き出させて強調し、さらに塔を建てる形態をもつなど、ネオ・バロック的骨格を有しています。

装飾的要素が配される位置や寸法は西洋の建築様式に従っていますが、半円形アーチがイスラム風の葱花形アーチに置換・変形されるなど、全館の内外にわたり東洋的モチーフ（日本的、中国的、インド的、イスラム的と多彩）への置換・変形がみられます。この東洋的モチーフへの置換えは、本庁舎最大の特徴といえるものであり、特に装飾密度の高い前面中央部、エントランスホール等で顕著にみられます。

また、市会議場においても議長席後方の壁面に配された半円アーチの縁には、インド的な繰形が巡らされ、天井はイタリア・ルネサンス的な骨太の格天井であり、格間にはイスラム風の円花飾りが配されています。

このように、中国・インドまで含めた東洋的モチーフを用いている建物は少なく、本庁舎は建物の内外で一貫してこの手法を用いており、近代建築史上重要な位置を占めているといえます。

①日本的造形	塔屋の毛筆をかたどったタレット
②中国的造形	バルコニー下部に見られる石造りの舟肘木(ふなひじき)をモデルとした支え
③インド的造形	塔屋の正方形の凸凹
④　〃	議長席後方の半円アーチ
⑤イスラム的造形	エントランスホールの葱花形アーチ
⑥　〃	議場天井の円花飾り
⑦イタリア・ルネサンス的造形	議場の格天井

● 本庁舎年表

昭和２年４月
本庁舎(Ⅰ期)完成(三代目庁舎)

昭和６年８月
本庁舎(Ⅱ期)完成(三代目庁舎)

平成11年3月
京都市本庁舎に関する学術研究調査の実施

平成20年度
市庁舎整備懇談会設置

平成22年度
市庁舎整備懇談会からの提言受領
現在地での整備、本庁舎の保存活用を公表

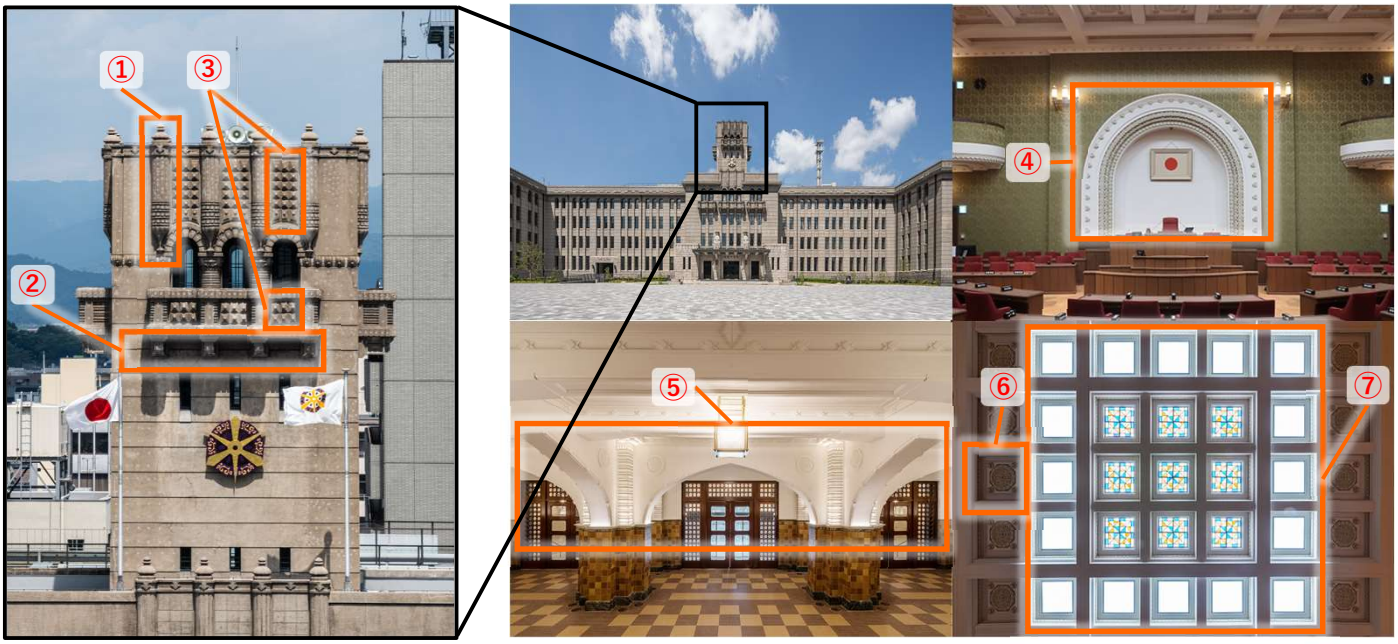
平成23年度
本庁舎の保存・活用に向けた耐震補強工法等の調査検討を実施

平成24年度
本庁舎の保存・活用に向けた耐震補強工法等の調査結果を公表
市庁舎整備基本構想（案）に対する市民意見募集の実施
市庁舎整備基本構想策定

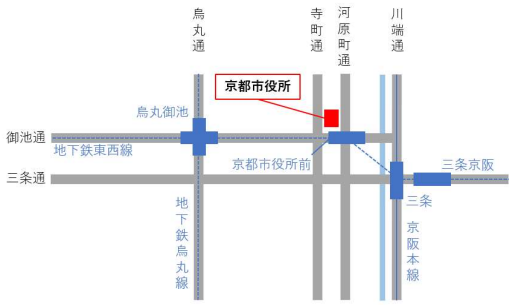
平成25年度
市庁舎整備基本計画策定

平成29年度
本庁舎改修工事着工

令和３年８月
本庁舎改修工事完了



発行：令和４年７月　初版

京都市行財政局総務部庁舎管理課　新庁舎整備担当
〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

市庁舎整備の詳細はホームページでも御紹介しています！
https://www.city.kyoto.lg.jp/menu5/category/61-15-0-0-0-0-0-0-0-0.html